



世界の記憶

都立三田高校 ユネスコ委員



目次

0. 自己紹介

1. 三田高校における「世界の記憶」の認知調査

2. 「世界の記憶」をより身近にする体験の提案

①ワークショップ

②地域、国との連携

③私たちが明日からできること

3. 私たちからの期待

0. 自己紹介



令和7年度ユネスコ委員会 文化祭活動報告

バザー班

秋に開催される白珠祭(文化祭)にてバザー開催と募金活動

収益は全額ガザ地区への支援を行う団体に寄付

ユネスコ バザー

9/6、9/7の白珠祭にてバザーと募金
活動を実施

収益総額56,980円(売上額・募金額)

→国際NPO「地球のステージ」を通して
全額ガザ地区へ寄付



寄付先団体について

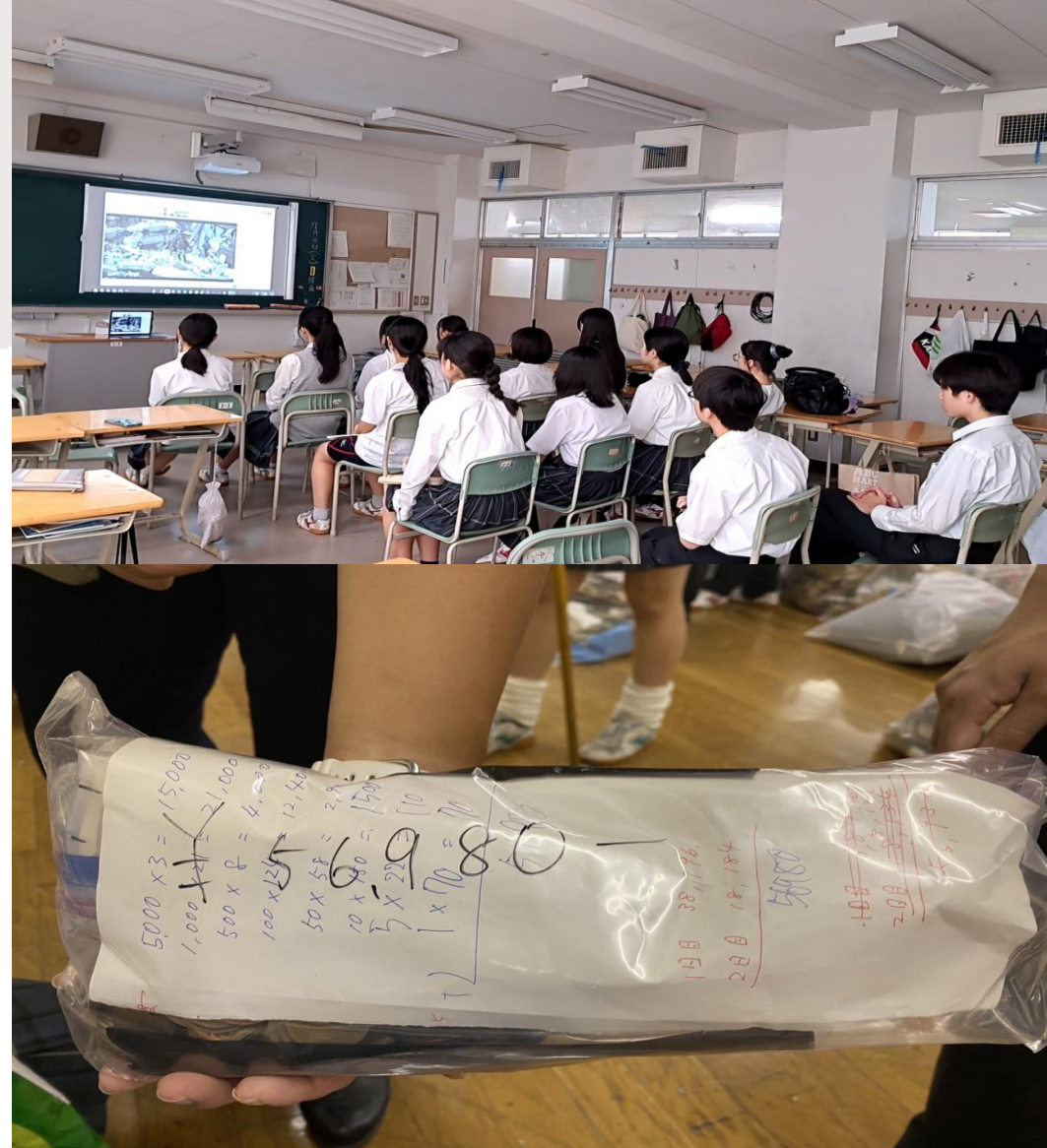
「地球のステージ」

→2002年に創立され、5か国で支援・公演事業を行うNPO。

医療・心のケア・教育・災害復興を行う。

・昨年本校で講演会を開催した際、紹介いただいたガザ地区の活動員の方が3月に亡くなり、三田高生ができることのひとつとして寄付を決定。

・7/15には委員向けに事前講演も開催。



地球のステージ

ガザの現状

**イスラエル軍による爆撃による
避難民が多数。**

**物価高騰など困窮した生活を
強いられている。**

**多くの人、特に子供は戦争に
よるトラウマからストレス障害
であるPTSDを発症。**





心のケア

地球のステージはPTSDを抱える子供たちに向けて心のケアを行う。

絵画や粘土細工による表現活動やフラフープを使った運動や音楽による心のケアを行う。



さいごに…

「今年度の白珠祭で得たバザーでの
売り上げ金と募金額、計56,980円は
全額、ガザ地区で子供たちへ心のケア
を行う地球のステージを通してガザに
寄付させていただきます…！」

白珠祭のバザーでご購入してくださっ
た方々、募金にご協力していただいた
方々、地球のステージの皆様、ありが
とうございました！

新企画班

毎年度新しい企画を考案し、実施

バザーにてエコワークショップを開催！

ワークショップ。

テーマ：

「ペットボトルキャップを再利用したキーホルダー作り」

幅広い年齢層の方が体験。

→ 普段何気なくリサイクルBOXに入れているキャップが、このように再利用されていることを知り、リサイクルへの**具体的なイメージ**をもつことができた。

また、自ら手を動かして**再生の過程を体験**したことで、資源を大切にする意識が一層高まった。

これからも身近な場面で環境への配慮を意識して行動していきたい。

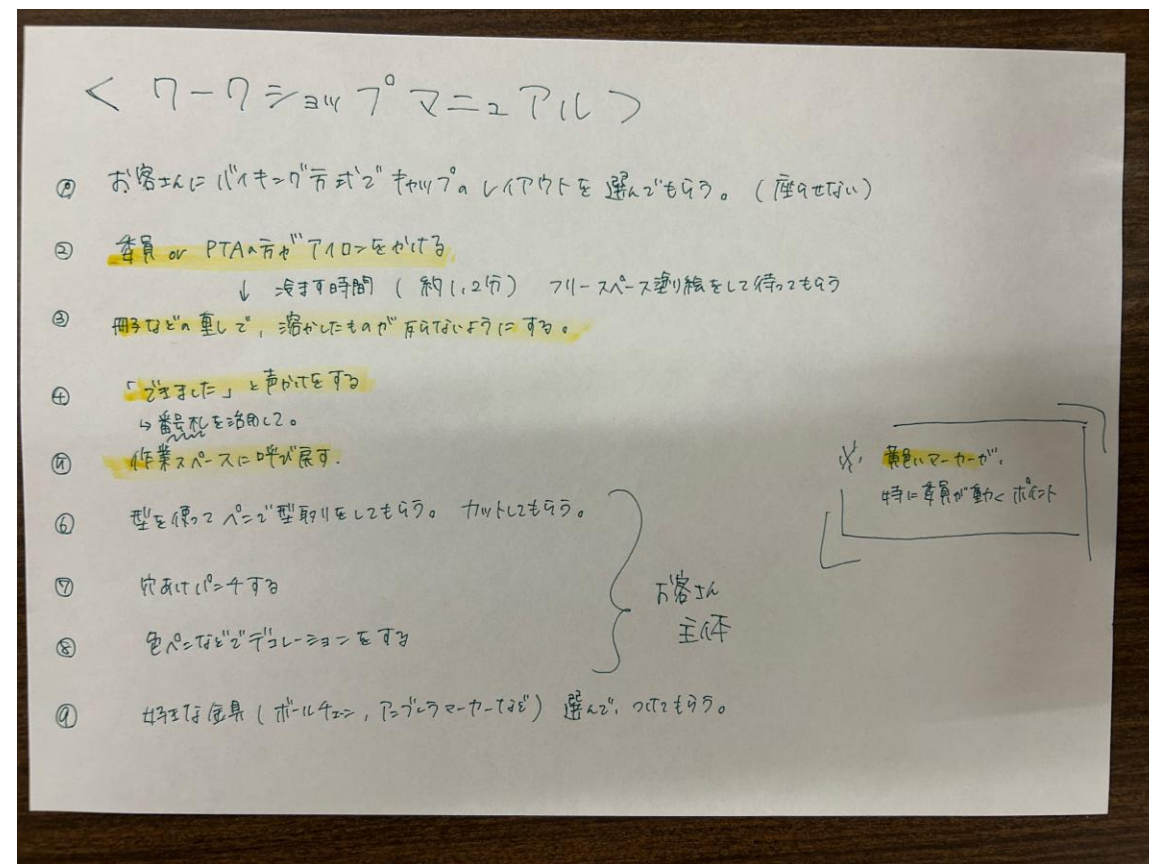


委員とPTAの方々の協力

ユネスコ委員としても、ワークショップは初の試み。

→マニュアルを作成して、誘導の方法や作り方を再確認

実際にPTAの方と一緒に前日に試作したことにより、当日はスムーズに行うことができた。



FREE SPACE の追加

バザーの回収品にあった
大きな塗り絵を
塗り絵のFREE SPACE
としてアレンジ!!

キーホルダー作りのアイロ
ンの待ち時間としても活
用。





最後に

今年の初チャレンジであるワークショップは手こずったところもあり、より改善できた部分もありましたが、委員のみんなが協力し合って活動する姿が多く見られました。

また、PTAの保護者の方々のサポートもあり、何とか乗り越えることができました。

本当にありがとうございました！！

1. 三田高校における 「世界の記憶」の認知調査





保存・伝承
↓
過去から現在、そして未来へ

「1人1人へのメッセージ」

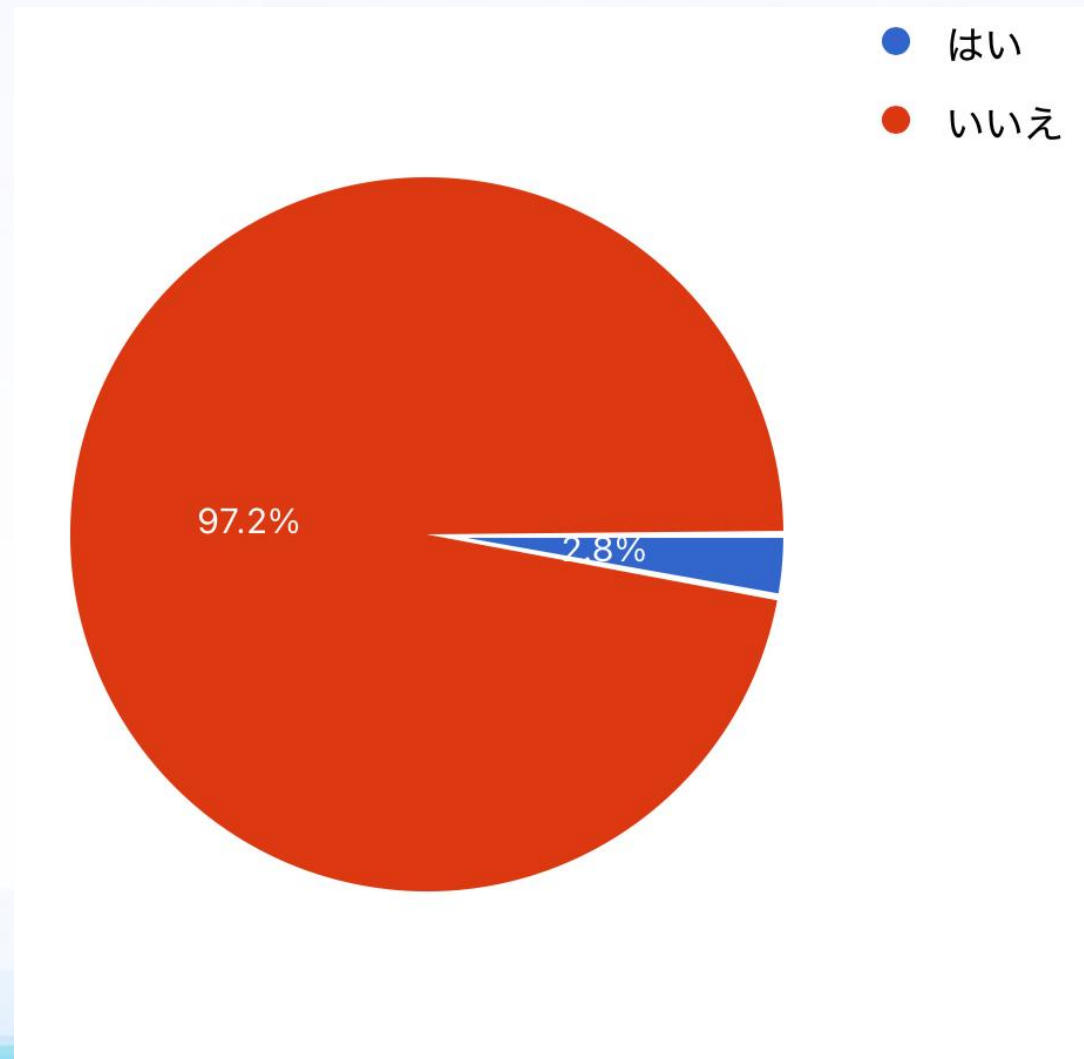


①「世界の記憶」という事業を知っている？

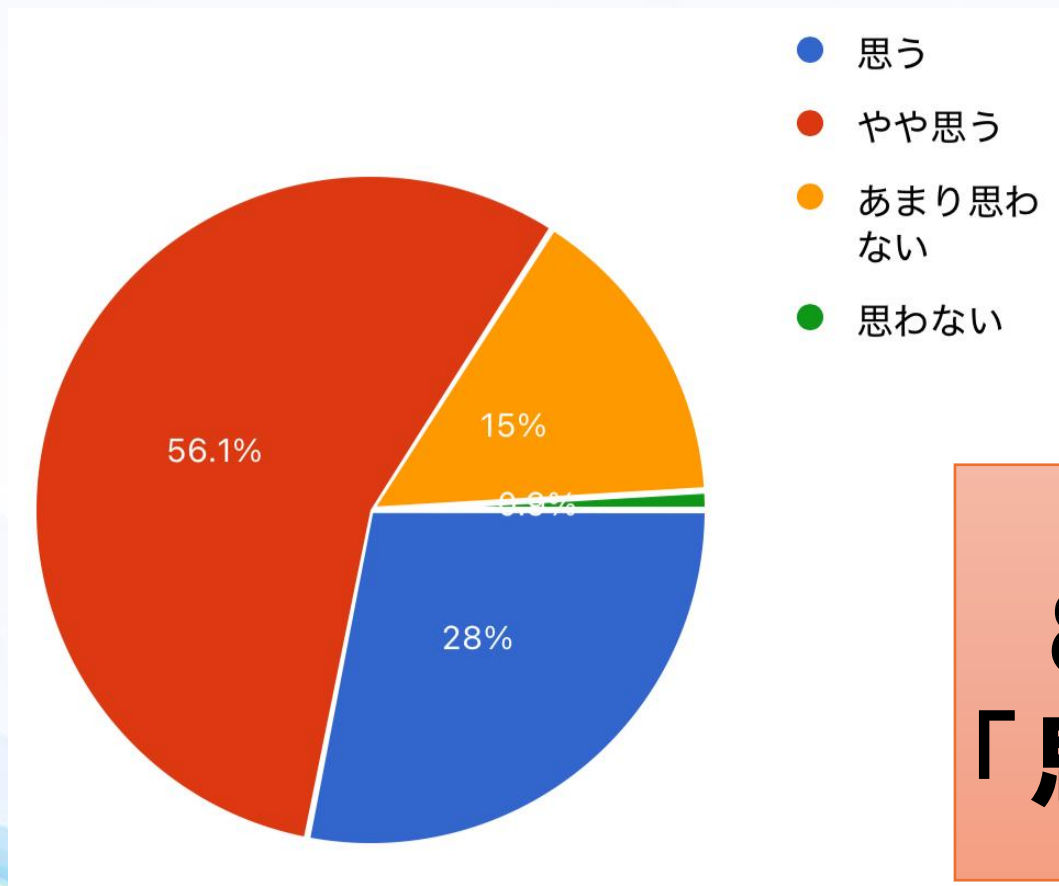
②増上寺の「大蔵経」を知っている？

知らない

三田高校 101名の意見



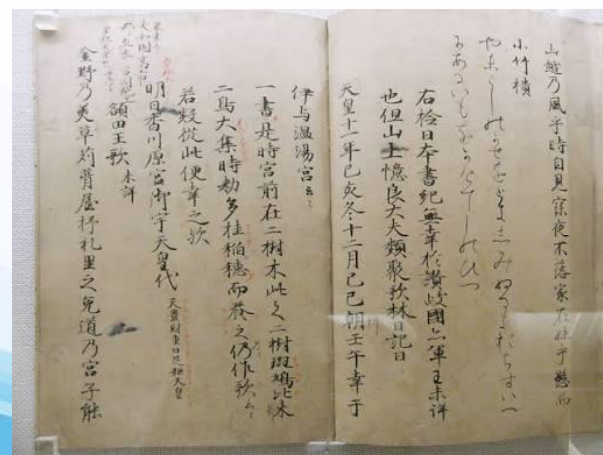
③この制度をより知りたいと思いますか？



85%
「思う」「やや思う」

④候補を選べる場合、何がふさわしい？

例) 広島原爆写真、源氏物語、浮世絵
東日本大震災の写真など



⑤広める際に現実的で、効果的な方法は？

例) SNS、展示会、映画化、コラボ





「もっと知りたい！共有したい！」

関心がない<きっかけが少ない



自分ごと

2. 「世界の記憶」をより身近にする体験の提案

- ① ワークショップ
- ② 地域、国との連携
- ③ 私たちが明日からできること

①ワークショップ

(1) 「大蔵経」を題材とした体験型ワークショップ

(2) 4つそれぞれのテーマを主題とした体験型
ワークショップ



UNESCO

(1) 「大蔵経」を題材とした体験型ワークショップ

大蔵経の翻訳・読解体験

→専門的な翻訳ではなく、現代の言葉に
置き換えながら「**この言葉は今の社会に
どうつながるか**」を考える



UNESCO

(2) 4つそれぞれのテーマを主題とした体験型 ワークショップ

①選ぶ

②時間

③失ったら
困るもの

④記録の
見せ方

①「選ぶ」をテーマにしたワークショップ

→記録を守る立場を類似体験、いくつかの歴史的資料や記録を見比べ、「もし自分が世界の記憶に残すとしたら、
どれを選ぶか考える」

②「時間」をテーマにしたワークショップ

→写真や文章、メモを用いて今の自分たちの記録を残し
「これを100年後に見た人はどう感じるか考える」

③「失ったら困るもの」をテーマにしたワークショップ
→文化や価値観、考え方が記録されていない世界
を想像しながら、「**記録が当たり前でないこと**」

④「記録の見せ方」をテーマにしたワークショップ
→高校生の視点で「**どうすれば初めて知る人に伝わるか**」
を考え、展示案や紹介文をつくる



UNESCO

世界の記憶をより広めるために

②地域、国との連携

①増上寺で開催されるイベントに**特別ブース**を設ける

②**公共施設**を活用した展示や体験の場を港区の**学生**が作る

③国が**世界の記憶選定**のあり方を**検討**する

①増上寺で開催されるイベントに特別ブースを設ける

- ・年間30件以上の行事

→世界の記憶を知らない多くの人に参加

自然に世界の記憶について知るきっかけになる

世界の記憶についてより身近に感じられるようになる

②公共施設を活用した展示や体験の場を作る

- ・図書館や区民センター
→いろいろな目的で利用する人が多い

自然に世界の記憶について知るきっかけになる

- ・自主的に調べるきっかけになる
- ・作品を見る人も親しみを持てるようになる



UNESCO

③国が世界の記憶選定のあり方を検討する

現在：文部科学省が候補をだし、選定

今後：**国民が候補を選出、専門機関が選定**
(国民と専門機関の役割が逆でも!!)

→学生だけでなく、日本国民全体からの**認知度が高まるはず!**

③ 私たちからの期待

知る”きっかけづくり”が大切

① ワークショップ、世界の記憶選定方法

② 高校生の私たちにもできること

”知って終わり”にしないために

三田高校内での普及活動

ユネスコ委員会主催のシンポジウムでの報告

私達にできることを！

記録の意味を広げていくために

- ・「記録は後世が知るために保存するもの」で終わらない
- ・残す、選ぶ、記録するなど行為として私たち自らが記録にかかわることが大切
- ・自分たち自身で考えることで意味が広がっていく

3月28日（土）

シンポジウム実施
会場：三田高校

～戦後80年の今、
私たちにできること～

去年のシンポジウム→

～高校生と創る、
平和・教育とダイアログ～

ダイアログ



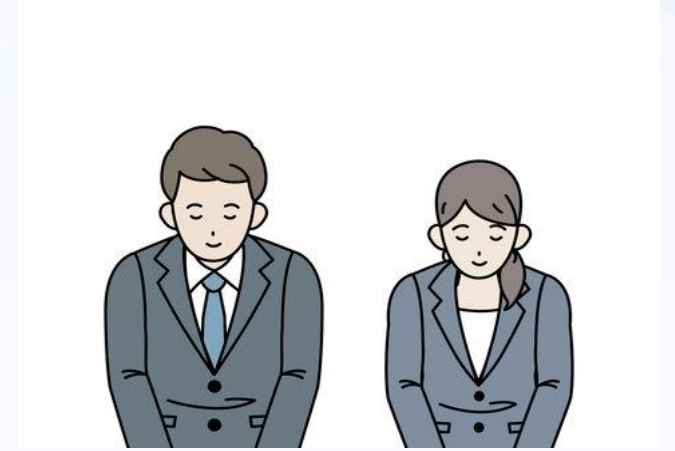
カード型教材を使ってダイアログ！
最後のダイアログでは、
「現代の人々に平和・教育に関心を
持ってもらう方法」をテーマに
ダイアログをおこないました。



<https://kyosei.u-sacred-heart.ac.jp/unesco2023/>



UNESCO



ご清聴ありがとうございました